（大阪府）田尻町立中学校（校長　濵田吉美）

○　３カ年で学ぶ「沖縄戦」と「基地問題」

自分自身が平和を守り、平和を創り上げていく使命を負っている

（平成 27 年 10 月 31 日）

【実践事例紹介】　横井武志　教諭　（二学年主任）　※文中敬称略

（聞き手：沖縄県平和祈念資料館　古謝将史）

１．実践している平和学習について

（聞き手）貴校で実践している平和学習に関していくつかお聞きします。
まず，「沖縄戦」「沖縄における基地問題」を平和学習に取り入れた時期はいつごろでしょうか？　また，取り入れるに至った経緯（背景）について教えてください。

（横　井）以前より沖縄への修学旅行を実施していたが，十分な平和学習は行われていませんでした。
平成 15 年度より，武田博之教諭のもと，本格的に平和学習を実施しました。三年間かけた「学校の立て直し」の集大成として始めたものであり，平和学習のみならず，放課後の部活動指導にいたるまでさまざまな取り組みをしました。

（聞き手）今年度（もしくは過去数カ年）の取り組みで，とくに重要視していることは何ですか。

（横　井）沖縄で学んだ事を，修学旅行だけに終わらせるのではなく，学校生活の様々な場面に生きるものにすることです。別資料で紹介している事前学習，修学旅行を経て，感想文集作り，修学旅行報告会（8/6），文化祭での沖縄戦平和劇を通して，日常の学校や，家庭生活のありがたさを再確認し，平和の意識を高めることです。例えば，家族の支えに感謝すること，食の大切さを知り，給食を残さず有難くいただくこと，進路を考える際、生き方の根底となるものを創り上げることができたらと思います。

（聞き手）「沖縄戦」や「沖縄の基地問題」を平和学習で取り上げることについての生徒・保護者・地域の反応はどのようなものでしょうか？

（横　井）継続して取り組んでいる成果として，生徒にも保護者にも「学習すべきもの」としてとらえていると思います。兄や姉から話を聞いた生徒もおり，修学旅行説明会では，「いよいよ自分（の子）たちが学ぶ番が来た」という感じだと思います。

（聞き手）貴校では，地元（大阪府もしくは田尻町）における先の大戦について，どのように授業（平和学習）で取り扱っていますか？

（横　井）社会科の授業を中心として大まかな流れを学習します。日中戦争，太平洋戦争（大阪大空襲や沖縄戦，特攻隊，原爆など）については，教科書や映像資料を用いたごく一般的な授業です。また校外学習等を利用して大阪大空襲を扱った資料館（ピースおおさか）の見学や、高齢者施設を訪問し戦争体験の聞き取りをする学年もあります。２年時の職場体験学習で偶然戦争の話を聞かせてもらうこともありました。

（聞き手）３カ年間の平和学習を通して，生徒達が当初持っていた沖縄（沖縄戦・基地問題）に対するイメージについて，どのような変容がありますか？　逆に変わらないイメージもありますか？

（横　井）生徒の感想や平和劇に取り組む姿勢から，生徒の変容には大きなものがあります。入学当初は沖縄戦すら知らない状態です。3年生の報告会や平和劇を見ることで，1年生・2年生の各段階に応じて生徒たちの心に少しずつ深まりが見られます。「戦争があった」「基地問題がある」という事実を知ることに始まり，2年生から始まるテーマ別学習や教師による平和学習講座を経て沖縄戦や基地問題の背景や実態を知り，現地で実際に見る。その後は発信者として修学旅行をまとめ，劇として伝えるという一貫した流れに沿って，生徒たちが成長します。

２．平和学習に取り組んでいる先生方について

（聞き手）平和学習に取り組んでいる先生方に関する質問をします。
平和学習に取り組むきっかけとなったことは何ですか？

（横　井）前述したとおり，学校立て直しの一環です。

（聞き手）平和学習を通して，生徒に一番伝えたいことは何ですか？

（横　井）自分自身が平和を守り，平和を創り上げていく使命を負っているということです。事実を知り、大切な何かを感じ，それを発信していく。身のまわりの平和に改めて感謝し，身近なところから平和を作っていくことが大切であるということです。

（聞き手）戦争体験者が減少する中，今後，どのような平和学習が必要だと思いますか？

（横　井）できる限り沖縄戦に関する記録・記憶を継承し，基地問題の実態についての学習を継続していくことはもちろんですが，大切なのは，例えば大阪と沖縄の中学生といった，若い世代をつなげていくことだと思います。以前，新聞等で沖縄の若者が望むこととして「本土からの独立」という記事を見ました。日本でなくなれば基地負担をしなくてすむといった考えだと伺いますが，沖縄の実態を我々が知り，子どもに伝え，沖縄だけに負担を背負わせないことが最も重要だと思います。

平成26年度は「現在の沖縄」に焦点を当て、基地が存在することで今の沖縄の実態から過去に迫りました。宮森小や沖縄国際大等、20 数班に分かれてタクシーの班別学習を実施し、様々な方からの聞き取り体験を行いました。また、今年度は南部戦跡の見学や戦争体験者（もと鉄血勤皇隊　長田勝男氏）の聞き取りに加え、道の駅かでな館長の方からもお話を伺い、基地の実態に迫ることができました。来年度は、沖縄の中学生との平和交流会を計画しています。

（聞き手）学校全体もしくは学年・学級で平和学習に取り組む際、職員間で大切にすることや気をつけるべき事は何ですか？

（横　井）一般的な言い方ですが，やはり「自分や家族・仲間を大切にできる」生徒を育てるという目的を忘れないことだと思います。平和学習はあくまでその一環であり，事実や実態だけを教えて恐怖や深刻さだけを残すのではなく，そこから自分が何をすべきか，日本がどうあるべきかを探り，具体的な行動につなげていくための作業であるという点を忘れてはならないと思います。

（聞き手）貴校には沖縄修学旅行・平和学習に「熱意とこだわりのある職員」が多いと，事前に頂いた資料で伺いました。地域性なのでしょうか？たまたまそのような職員が集まっているのでしょうか？　本県では，校区内に戦跡がある学校がその地域性として継続した平和学習に取り組んでいるところもあれば，平和教育に情熱を持った教員が、勤務校で実践を積み重ねているところもあります。参考にご教授ください。

（横　井）率直に申し上げると，武田先生の存在が大きいと思います。本校に赴任して３年間，学年主任・担任、陸上部顧問として平和学習をはじめ様々な学校改革に取り組まれ，その後は生徒指導主事として現在まで学校を維持，向上させてこられた経緯があります。そこに周囲の職員が同じ方向を向いて学校づくりに取り組んでいることが，現在の生徒の落ち着きや物事を深く捉える姿勢につながっていると思います。手段や方法は様々であれ、生徒に対する熱意や研鑽を積む教師の姿勢がこれからも重要だと思います。

（以上）

『平和の伝達者』　事実を知り，大切な何かを感じ，それを発信していく。

～　「沖縄戦平和学習」今後のシェアリングのために　～

『例えば大阪や沖縄の中学生といった，若い世代をつなげていくこと』

今回のシェアリングプロジェクトでは，大阪府にある田尻町立中学校をご紹介します。田尻町立中学校では，「沖縄戦」「基地問題」をテーマに，全学年で平和学習に取り組んでいます。３年生で実施する沖縄県修学旅行においては，戦跡巡りや基地周辺施設の見学を行っています。秋の文化祭では，３年間の平和学習の集大成として位置づける学年平和劇を披露しています。この平和劇を鑑賞した後輩たちへ、先輩たちが培ってきた平和学習の成果が引き継がれていくという一貫した流れになっています。

取り組みの特色としては，下記の二点があげられます。

①　三カ年で取り組む系統的な平和学習

②　沖縄県修学旅行を活用した戦跡巡りと基地周辺施設見学

充実した平和学習を実践している田尻町立中学校ですが，戦後７０年を経て，今後の課題を意識しつつ，新たな平和学習の構築のために行動をスタートさせています。戦争体験者から直接体験談を聞く機会が減少するという課題をふまえ，「若い世代をつなげ，連帯感をもって平和学習を作り上げる（濵田校長）」ための平和学習への転換を模索しています。その手始めとして，平成２８年度の修学旅行では、沖縄県南部戦跡に所在する地元中学校との平和交流学習を計画しています。戦争記憶の風化が危惧され，その教訓をどのように伝えて行くか課題が山積しています。若い世代同士の交流学習を通して記憶の継承を図っていく取り組みについても，今後、共有されるようになればと思います。取材協力いただいた濵田吉美校長，横井先生他職員の皆様に感謝申し上げます。

（沖縄県平和祈念資料館　古謝将史）